

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組 1】(A 中学校)

2 学期の初めに教育相談週間を設定しており、生徒が話したい先生を選んで相談することができる機会を設定している。また、職員室前には相談ブースがあり、生徒対応で使用する他にも、校内別室の開室前の生徒の居場所としても利用されている。

【取組 2】(B 中学校)

各クラスの合唱曲をイメージしたポスターを作成し、職員室前の全校生徒が見られる場所に掲示している。生徒は掲示された廊下を通る度に見ることができ、合唱祭への意欲を高めるとともに、クラスのきずなづくりにつながっている。

【取組 3】(C 中学校)

校内別室を利用している生徒を対象に、地域センターの調理スペースをお借りしてポップコーンづくり体験を行った。事前に生徒に食べたい味のアンケートも調査した。当日は協力して調理を行って実食することで、校内別室を利用する生徒同士のきずなを深めることができた。



【取組 4】(C 中学校)

1 学年の数学の授業では、問題を解いたあとに生徒同士で確認する時間を設けている。一部の生徒の解答を中心に授業が展開するのではなく、一人一人の解き方を大切にして、互いに学び合える雰囲気醸成している。2 学年の社会科の授業では、モニターに画像資料を多く提示し、画像資料とリンクしたワークシートを活用することで、生徒の興味を引き、視覚的に分かりやすい工夫が行われている。

【取組 5】(D 中学校)

本地区では不登校対応巡回教員が 1 人で 5 校を巡回しており、全校で全体研修を行うことは日程的に難しいことから、各校の校内支援委員会にて学期に 1 回程度のミニ研修を実施している。D 中学校では、ミニ研修を行うために校内支援委員会をモニターのある教室で開催し、1 学期は「未然防止」をテーマとして不登校の新規数・継続数の把握、魅力ある学校づくりの取組、PDCA サイクルの実施について研修を実施した。

多様な学びの場を確保する取組

（「早期支援」及び「長期化への対応」の取組）の推進

支援会議（D中学校）

毎週火曜日の2校時に実施している。参加者は管理職・養護教諭（特別支援コーディネーター）・学年主任・生活指導主任・不登校担当・不登校対応巡回教員・SSC・SSWとなっている。各学年の不登校生徒を含む、支援が必要な生徒に関する情報を丁寧に共有し、支援につなげている。

アウトリーチによる支援（E中学校）

不登校が長期化し、登校することが難しい生徒に対して、学年の教員・SCと連携し、月に2～3回程度家庭訪問を行っている。訪問の際、学校や進路等の話題ではなく、休日にしたことや趣味のゲームの話などをするようにしている。日頃の対話を通して関係を構築していくことを意識している。

校内別室における支援（C中学校）

校内別室を今年度から開室し、水曜日以外の週4日開室している。不登校対応巡回教員、不登校担当教員、支援員6人で運営している。生徒が担任又は不登校担当教員に利用の希望を伝え、校内支援委員会において確認を行った後、体験と面談を実施して正式入室としている。校内での支援に加えて、地域との連携も図っており、通室生徒が近隣の地域センターで行われた秋祭りの看板の作成なども行った。具体的には、イラストやレタリングが得意な生徒が文字を書いたり、それ以外の生徒も祭りをモチーフにした折り紙の装飾物を作成して看板に貼り付けたりするなど、協力して作業を行った。当日、看板は会場内に飾られ、終了後は持ち帰り、校内別室に掲示している。

デジタル機器を活用した支援（A中学校）

不登校生徒を対象に、オンライン授業を実施している。毎週の校内支援委員会で校内別室の利用生徒の確認を行い、実施の状況等を把握している。また、一人1台学習者用端末を利用して、校内別室にいる不登校生徒が学年での総合的な学習の時間に参加することができる。

関係機関との連携（B中学校）

市立病院の院内学級に配置されている教員と不登校対応巡回教員が連携して病院を訪問し、小児科医も含めて支援体制等について情報交換を行った。医療的見地からのアドバイスを受けて、学校で支援できることについて学年の教員・担任と検討し、支援につなげている。

成 果

校内別室の環境整備を進め、校内支援委員会での情報共有を行うことで不登校生徒の支援の充実を図ることができた。

課 題

魅力ある学校づくりを推進するため、各校での授業観察や教員とのコミュニケーションをより活発に行っていく必要がある。